

●プロフィール

■制作（マネージメント・構成・編曲・司会）／松本憲治



東京藝術大学卒業。声楽を専攻しつつ在学中より作曲を高田三郎、島岡譲、また早川正昭の各氏に師事。現在オーケストラ、オペラ、合唱の指揮、多様なジャンルの作・編曲などで活動、様々な地域での市民のための文化芸術制作を幅広く実施している。中国新聞文化センター講師、廿日市市芸術文化振興事業団特別顧問など。平成17年広島市より広島文化賞、平成27年廿日市市よりさくら賞、同年広島県より広島県地域文化功労者表彰。

■演奏者

○工谷明子／ソプラノ



愛知県立芸術大学音楽学部音楽科声楽専攻卒業。卒業後日本声楽家協会にて研鑽を積む。第10回全日本高等学校声楽コンクール広島県大会第一位。大学在学中、定期演奏会及び卒業演奏会に選出。第12回さくらびあ新人コンクール第二位。2013年ソロリサイタル開催。2023年マツダスタジアムで国歌独唱をつとめる。現在は合唱指導やコンクールの審査員等にも携わる。廿日市市在住。

○今井千晶／ヴァイオリン



愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻（音楽学）卒業。日本音楽学会中部支部例会にて卒業論文を発表。エリザベト音楽大学大学院器楽科（ヴァイオリン）修了。現在、エリザベト音楽大学非常勤演奏副手、助手、瀬戸フィルハーモニー交響楽団団員、はつかいちジュニア弦楽合奏団“NOZOMI”インストラクター、はつかいち室内合奏団“SA・KU・RA”団員。

○宮本隆一／チェロ



東京音楽大学付属高等学校を経て東京音楽大学卒業。東京音楽大学大学院修了。第8回日本アンサンブルコンクール室内楽部門優秀演奏者賞、全音楽譜出版社賞受賞。アメリカでCreative Strings キャンプに参加。在京中、東京フィルハーモニー・オーケストラをはじめ様々なプロ・オーケストラに参加。現在、広島を中心にソロ、アンサンブル、オーケストラで活動中。ノートルダム清心中・高等学校弦楽部コーチ等。

○大下由紀江／ピアノ



広島市出身。東京音楽大学付属高等学校を経て、同大学ピアノ演奏家コース卒業。ポーランド国立ワルシャワショパン音楽大学研究科修了。東京、広島、スペインにてリサイタル開催。ポーランドやルーマニア室内管弦楽団とコンチェルト共演。「国際ピアノコンクール in ローマ2008」第3位。現在、安田女子大学 非常勤講師。広島サンブラザカルチャークラブ 伴奏ピアニスト。広島アーティスト協会正会員。

■ステージスタッフ／檜垣伸朗

長く、主に照明スタッフとして篠本照明株式会社に所属し、照明プランの他、舞台全般の舞台監督業務に携わる。現在フリーの舞台監督として様々なコンサート、イベントの制作進行業務に関わっている。

ボランティアスタッフ募集中

一般社団法人海田町文化スポーツ協会

各種イベントにスタッフとして参加したい人や、誰かの応援をしたい人を募集しています。

世界の名曲コンサート

～美しいメロディー～

歌の翼に

広い年齢層の地域住民を対象に、
人類共通の財産である「クラシック」と
言われる芸術音楽を親しめる内容で、
人の心の豊さ、深さ、素晴らしさ、
そして地域の人々の共生を
音楽を通して感じるコンサート

日 時 令和7年6月29日（日）

13:30開演（13:00開場）

会 場 織田幹雄スクエア ホール

主 催 一般社団法人海田町文化スポーツ協会

後 援 海田町教育委員会



世界の名曲コンサート

～美しいメロディー～
歌の翼に



●プログラム

解説：松本憲治

- 1) **即興曲 Op.90-2/F. シューベルト (1797～1828)** ・ピアノ独奏
シューベルトが1827年頃、つまり亡くなる一年ほど前に作曲した「四つの即興曲」の中の一つ。ピアノの右手の旋律が、キラキラ輝く「無窮動」（絶え間なく動く）と言われる動きで有名。
- 2) **ユーモレスク/A. ドヴォルザーク (1841～1904)** ・ヴァイオリン独奏
1894年に作曲された「8つのユーモレスク集」の7曲目。元はピアノ曲でしたが、第7曲が大変な人気でさまざまな楽器で編曲されました。「ユーモレスク」というのは「ユーモア」が語源の「自由で気まぐれな」楽曲形式の名前。
- 3) **トロイメライ (夢) /R. シューマン (1810～1856)** ・チェロ独奏
「子供の情景」という全13曲のピアノ組曲の第7曲。1838年に完成。この曲の「下から分散和音で上がっていく旋律」は有名です。「トロイメライ」は「夢」あるいは「夢うつな状態」のこと。子供がうっとりしている様子。本日はチェロの独奏で。
- 4) **メヌエット・ト長調/L. V. ベートーヴェン (1770～1827)** ・二重奏
1795年に作曲された「六つのメヌエット」の2番目の曲。「ドイツ」的な、きちんとした形式を守った、「誰にもわかる」優美で伸びやかな旋律。「メヌエット」はバロック、古典期の「三拍子」の舞曲です。
- 5) **花のワルツ/P. チャイコフスキー (1840～1893)** ・三重奏
バレエ組曲「くるみ割り人形」の、豪華で優雅な名曲です。色とりどりの、あるいは選び抜かれた花たちが、一斉にワルツを踊ります。「ワルツ」は前述「メヌエット」から発展した三拍子の舞曲です。
- 6) **歌の翼に/F. メンデルスゾーン (1809～1847) ・久野静夫：訳詞** ・ソプラノ+三重奏
この曲も世界中で愛されています。日本でも音楽の教科書に必ず。ハインの詩に付けられたメロディーですが、日本語の訳詞もなかなか優雅。旋律も「資産家メンデルスゾーン」を彷彿させる幸福感に満ちています。
- 7) **日本の歌曲/宵待草/詩：竹久夢二・作曲：多忠亮 (1895～1929)** ・ソプラノ独唱
多忠亮（おおの ただすけ）は、元々は宮内省雅楽部出身。東京音楽学校（現藝大）ではヴァイオリン専攻。「宵待草」という植物は無いのだが、竹久夢二のこの「命名」は、この詩の情感を深めています。



8) 現代の日本歌曲/しぐれに奇する抒情

・ソプラノ独唱

／詩：佐藤春夫・作曲：大中恩（1924～2018）

「現代の抒情」と言ってもいいくらいの、日本語をとてども大事にした旋律とピアノ書法で、「日本歌曲」というジャンルの日本の古典から繋がっている奥深さを感じさせます。父親は「椰子の実」作曲の大中寅二。

9) 童謡/かなりや/詩：西条八十・作曲：成田為三（1893～1945）

・ソプラノ独唱

大正時代は「赤い鳥」をはじめ「金の船」など児童向け童謡誌が興盛を極め、「当代一流」の名詩人、名作曲家が名を連ね、後代に残る名作を生み出している。1918年（大正7年）「金の船」11月号初出。

10) 唱歌/夏は来ぬ/文部省唱歌

・ソプラノ+三重奏

／詩：佐佐木信綱・作曲：小山作之助（1864～1927）

明治38年尋常小学唱歌5年用。実際は5番まで。日本の山里の初夏の風景が形の整った詩と旋律で歌われ、未だにファンも多い。明治期の後半から大正初期にかけて作られたいわば「官製」の唱歌と「民の自由な感情を歌った」童謡は、その後の我が国の大衆音楽、また芸術音楽の基礎となった貴重な文化芸術財産です。

11) 現代の歌 夢であいましょう

・ソプラノ+三重奏

／詩：永六輔・作曲：中村八大（1931～1992）

1961年（昭和36年）同名のNHKバラエティ番組のテーマソング。永六輔中村八大コンビによる名曲の一つ。口ずさみやすく、優美でシンプルな旋律は、現代の人々の情感にも十分響きます。

（※ みんなで歌いましょう!）

五、 五月（さつき） 水鶏（クイナ） 早苗（さなえ）	四、 棟（おうち） 門（かど） 夕月（ゆづり）	三、 窓（あな） おこた（いさ） おこた（いさ）	二、 さみだれの 早乙女（もすそ） 玉苗（たまなえ）	一、 卵（たまご） 時鳥（ホトトギス） 忍音（しのびね）	夏は来ぬ 詩：佐佐木信綱 作曲：小山作之助	四、 象（ぞう） 象牙（ぞうば） 月夜（げつや）	三、 柳（やなぎ） 柳（やなぎ） 柳（やなぎ）	二、 背戸（せうど） 背戸（せうど） 背戸（せうど）	一、 後（ご） 後（ご） 後（ご）	かなりや 詩：西条八十 作曲：成田為三
鳴き 植え 夏は来ぬ	水鶏（クイナ） 水鶏（クイナ） 水鶏（クイナ）	おこた（いさ） おこた（いさ） おこた（いさ）	さみだれの 早乙女（もすそ） 玉苗（たまなえ）	卵（たまご） 時鳥（ホトトギス） 忍音（しのびね）		象牙（ぞうば） 象牙（ぞうば） 象牙（ぞうば）	柳（やなぎ） 柳（やなぎ） 柳（やなぎ）	背戸（せうど） 背戸（せうど） 背戸（せうど）	後（ご） 後（ご） 後（ご）	
夏は来ぬ	水鶏（クイナ） 水鶏（クイナ） 水鶏（クイナ）	おこた（いさ） おこた（いさ） おこた（いさ）	さみだれの 早乙女（もすそ） 玉苗（たまなえ）	卵（たまご） 時鳥（ホトトギス） 忍音（しのびね）		象牙（ぞうば） 象牙（ぞうば） 象牙（ぞうば）	柳（やなぎ） 柳（やなぎ） 柳（やなぎ）	背戸（せうど） 背戸（せうど） 背戸（せうど）	後（ご） 後（ご） 後（ご）	

